

絵本：「わたしのくにだから」

～今の日本で何が起きているの？ - 知ることの大切さ - ～

この絵本を作ろうと思った動機が2つある。1つは日本のことを知らなさ過ぎる自分にある。大学4年にもなって、日本の政治の動きについて理解不足であり、日本の将来を左右する憲法改定の意味についてもゼミを通して知った。新憲法草案に自衛軍や軍事裁判所の明記があること、福祉よりも公共の秩序が重視され、再び戦時中の国に統制された社会ができる可能性があることを知り、今まで自分の国についてしっかり理解していなかった反省と「知らない」ことへの恐怖を感じた。2つ目の理由は、妹との会話にある。家庭内で憲法改定等の報道を見るたびに、「おかしいよね」という発言をしていたところ、妹が私に「日本が嫌いななの？」と聞いてきた。私の口調が悪かったのもあるかもしれないが、政治の動きに反発する方がおかしい、という家の中の空気に危うさを感じた。同時に、自分で説得しきれないことへの歯がゆさも感じた。

以上の動機から、以下の3つの目的をもとに絵本製作を進めた。1)今の日本で何が起きているのか、今後起こりうる可能性を自分にも家族にもわかるようにする。2)「知らないこと」が何をもたらすかという恐怖を伝える。3)私たちは政治の観客ではなく、すべては他人事ではないということを伝え、私たちはどうすればいいのか、理解し考えられるきっかけをつくる。

読み手が受ける絵本の印象は様々であろう。強い恐怖を感じる人もいるだろうし、意見が偏りすぎていると感じる人もいるだろう。絶対起こりえないといえない絵本の中の将来を見て、どのように私達が行動していくかが、この絵本の結論となる、と考える。

【絵本のあらすじ】

主人公はニュースや政治などにあまり興味がない大学生。知らないうちに起こっていく教育基本法改定、憲法改定に最初は無関心で、「まあいいんじゃない」という感覚でいる。やがて日本が戦争に軍として参加できるようになり、近所の知り合いが戦争に行くことになって初めて、「おかしさ」に気づく。自分の力で「知る」ことの大切さを実感する……。

【参考文献（一部抜粋）】

製作にあたり、以下に記載される本・資料の他に、日本国憲法、新日本国憲法草案や、参加した様々な講演会、シンポジウム等で得た多くの方の意見を参考にした。

・長谷川恭男（2006）「憲法とは何か」岩波書店

・西川重則・みなみななみ（2006）「これから戦争なんてないよね？ - 自由がふつうじゃなくなる日」いのちのことば社